

平成6年創刊号

ビタミンC

社会福祉法人 慈恵会
特別養護老人ホーム
あいふるの里
愛知県一宮市浅井町
西海戸字余陸寺45-1
☎ <0586>78-8441



創刊にあたって

理事長 谷川 和子

若葉の光も爽やかなる、輝かしい季節の六月あいふるの里の機関紙“ビタミンC”が発刊される運びとなりました。わがあいふるの里も、本年六月には開所以来満四年を迎えますが、入所者の皆さん、施設ご利用の皆さん、職員が揃って、平穩無事に今日の日が存在することは誠に喜ばしいことでございます。これも偏に神仏のご加護はもとより社会の幾多のお蔭があればこそと盡きない感謝を捧げております。今後もあいふるの里の発展が“ビタミンC”に反映して、次号への期待益々高まるように願って創刊のごあいさつとさせていただきます。





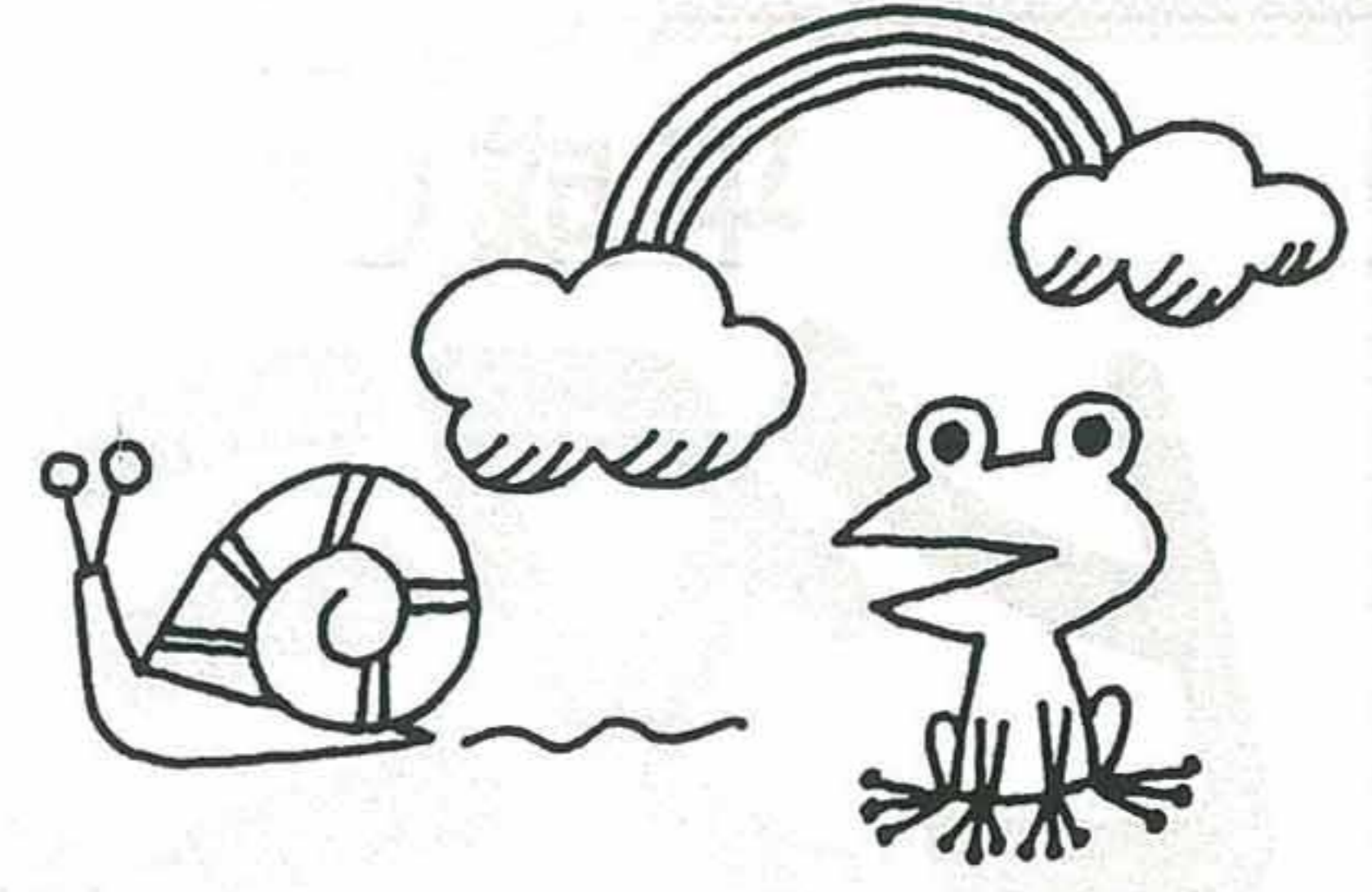
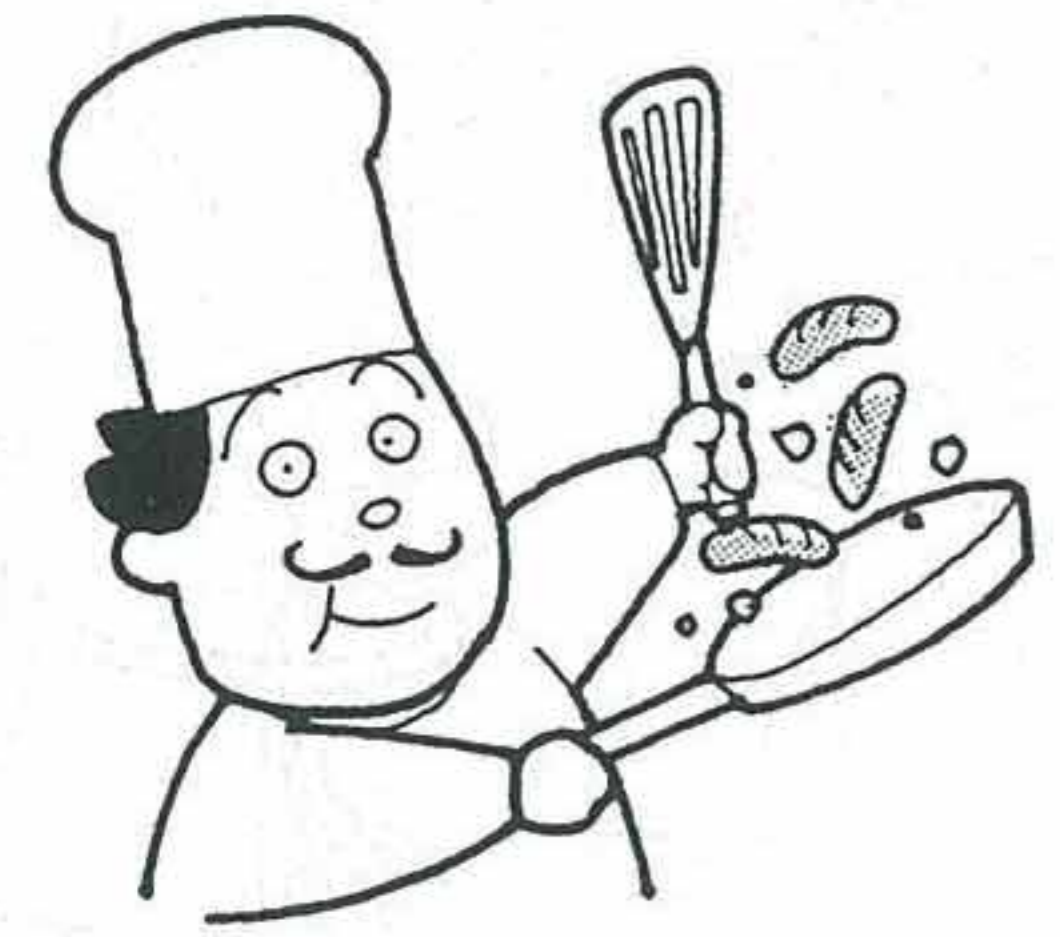
「おかげさまで」

あいふるの里で給食サービスを始め
る様になって早いもので9ヶ月が経
ちました。



「おいしいお昼ごはん 食べていらっ
しゃいますか？」のフレーズと共に
各家庭を廻る給食サービス。私達ス
タッフに取っても、楽しく、勉強さ
せて頂く事も多い、貴重な時間となっ
ています。増々充実させ、更に利用
者のお年寄りに喜んで頂けるよう
頑張っけて行きます。本当に「おかげ
さまで」ありがとうございます。未
だ利用されていない在宅のお年寄りの
方、一度お試しになってみて下さい。
詳しい事は
あいふるの里

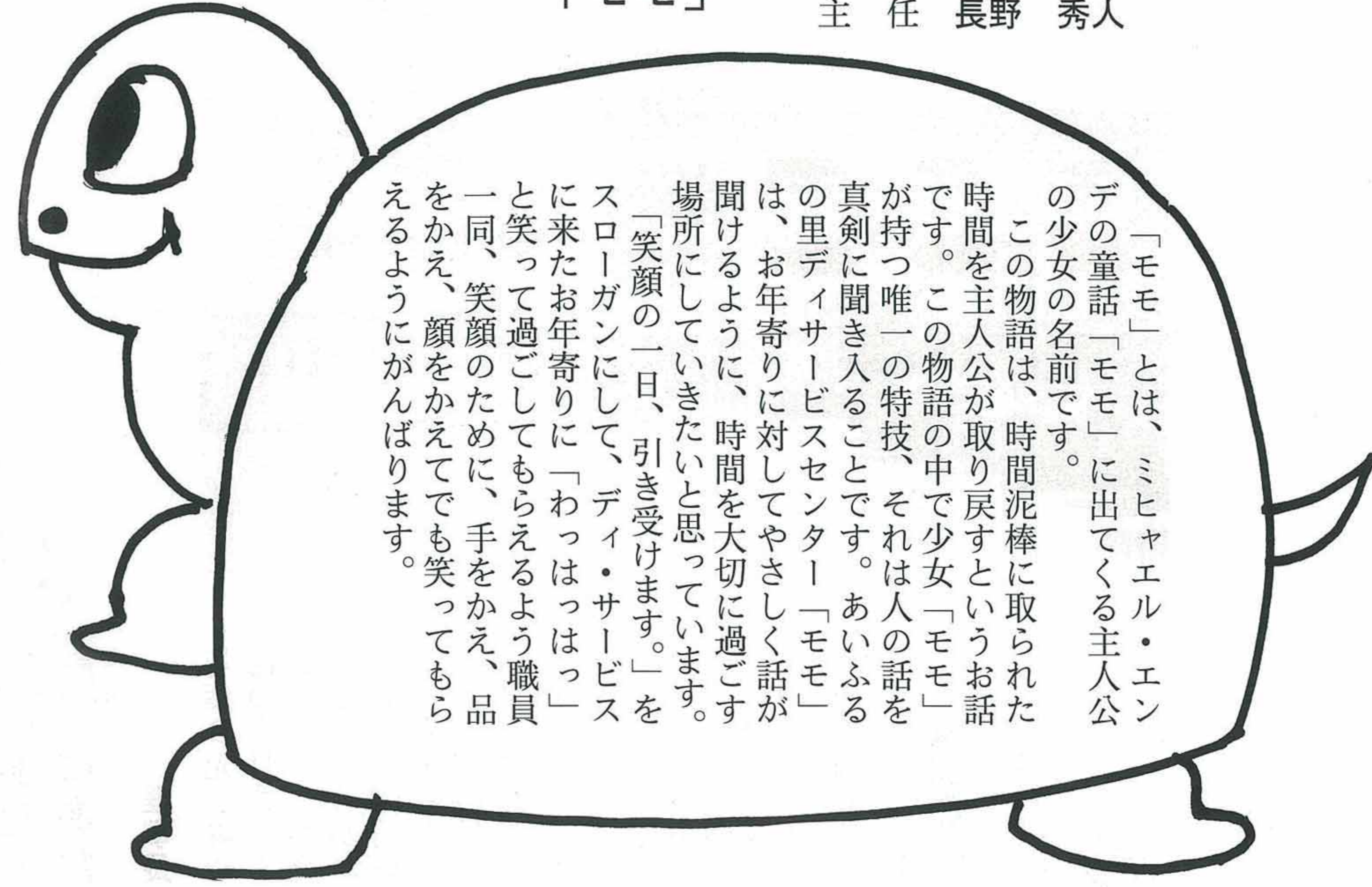
〈0586〉 78-8441
在宅給食サービス係まで



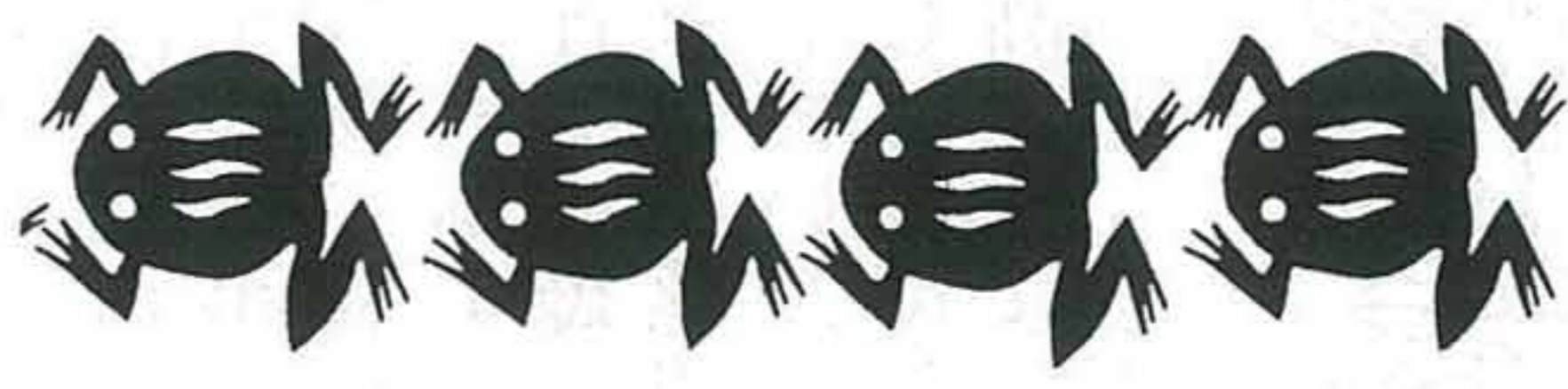
あいふるの里ディ・サービスセンター

「モモ」

主任 長野 秀人



「モモ」とは、ミヒヤエル・エン
デの童話「モモ」に出てくる主人公
の少女の名前です。
この物語は、時間泥棒に取られた
時間を主人公が取り戻すというお話
です。この物語の中で少女「モモ」
が持つ唯一の特技、それは人の話を
真剣に聞き入ることです。あいふる
の里ディサービスセンター「モモ」
は、お年寄りに対してやさしく話が
聞けるように、時間を大切に過ごす
場所にしていきたいと思っています。
「笑顔の一日、引き受けます。」を
スローガンにして、ディ・サービス
にきたお年寄りに「わっはっはっ」
と笑って過ごしてもらえよう職員
一同、笑顔のために、手をかえ、品
をかえ、顔をかえてでも笑ってもら
えるようにがんばります。



その甲斐あっての受賞となりました。夏まつりのフィナーレを飾るのは、「トーチトワリング・花火・火文字」です。「トーチトワリング」とは両手に棒を持ち、その先に火をつけてくるくると回す芸で、「火の舞」「火踊り」とも言います。あいふるの里の職員8名で構成され、今年で4回目となりました。おかげさまで、お年寄りの皆さん、ご近所の中でも楽しみにして下さる方が増え、私達も張り切っていました。残念ながら、火が弱く途中で消えたり、トーチ棒が壊れたりというハプニングがありました。

続く花火では、年々仕掛けに磨きがかかり、夜空に輝く光を見ながら、盛夏をしみじみと感じることができました。そして、最後に浮かび上がる火文字「まつり」には、この夏まつりの楽しさと皆様の長寿とお幸せになって欲しいという思いをこめて点火し、施設長の閉会のあいさつと共に、賑やかな夏まつりも終わりを迎えました。

いろいろな不備な点や思わぬハプニングもありました。でも参加している皆さんの笑顔や拍手、励ましの言葉を得ることができ、私達スタッフも嬉しくて、ある種の満足感を得

るの里 夏まつり」が開催されました。いつもの駐車場も、この時ばかりは大変身。中央には櫓がそびえ立ち、いくつもの模擬店が建ち並び、踊る人あり、見る人あり、食べる人ありに加えて、仮装大会のためには化ける人ありの盛大な夏まつりが繰り広げられました。

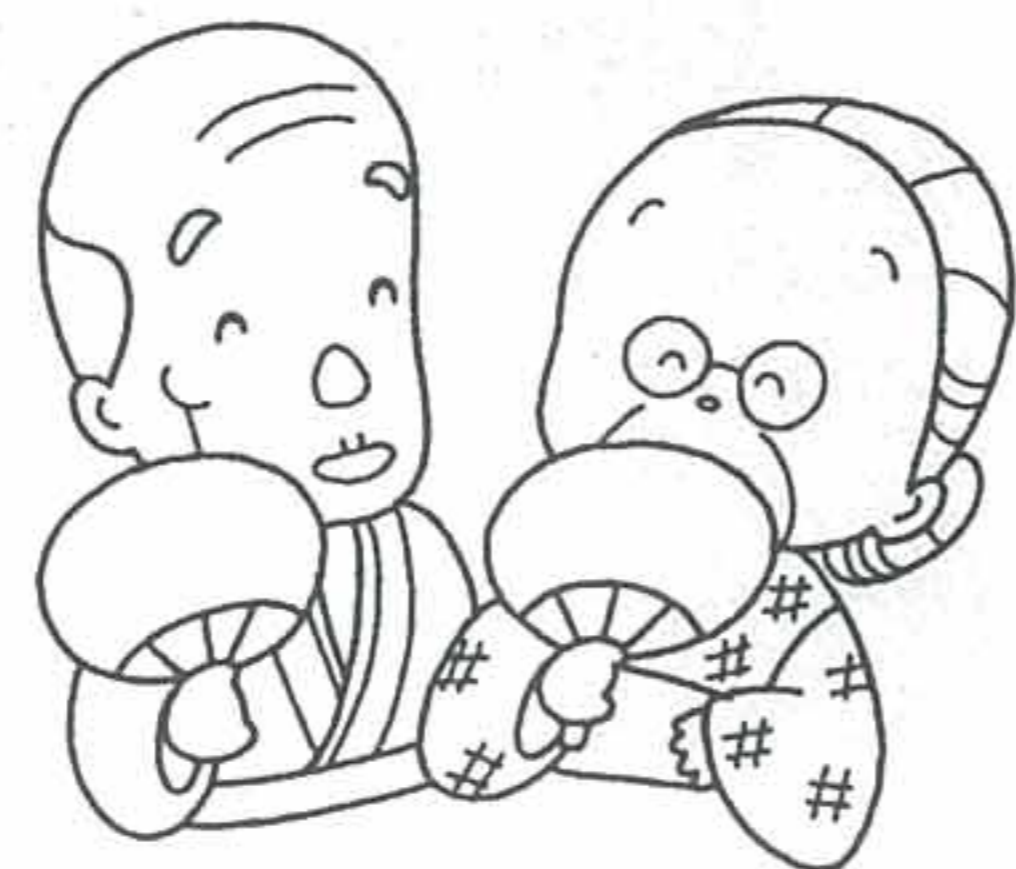
今年のメイン・イベントは「仮装大会」。あいふるの里の関係者だけでなく、外部の方も含め、様々な方が多勢参加して下さいました。

例えば、職員による「れれれのおじさん」や「変なおじさん軍団」はじめ、ケアワーカーとファミリーによる「水戸黄門」、学生さんによる「ウェディング(男女入れ替り)」、

夏まつり



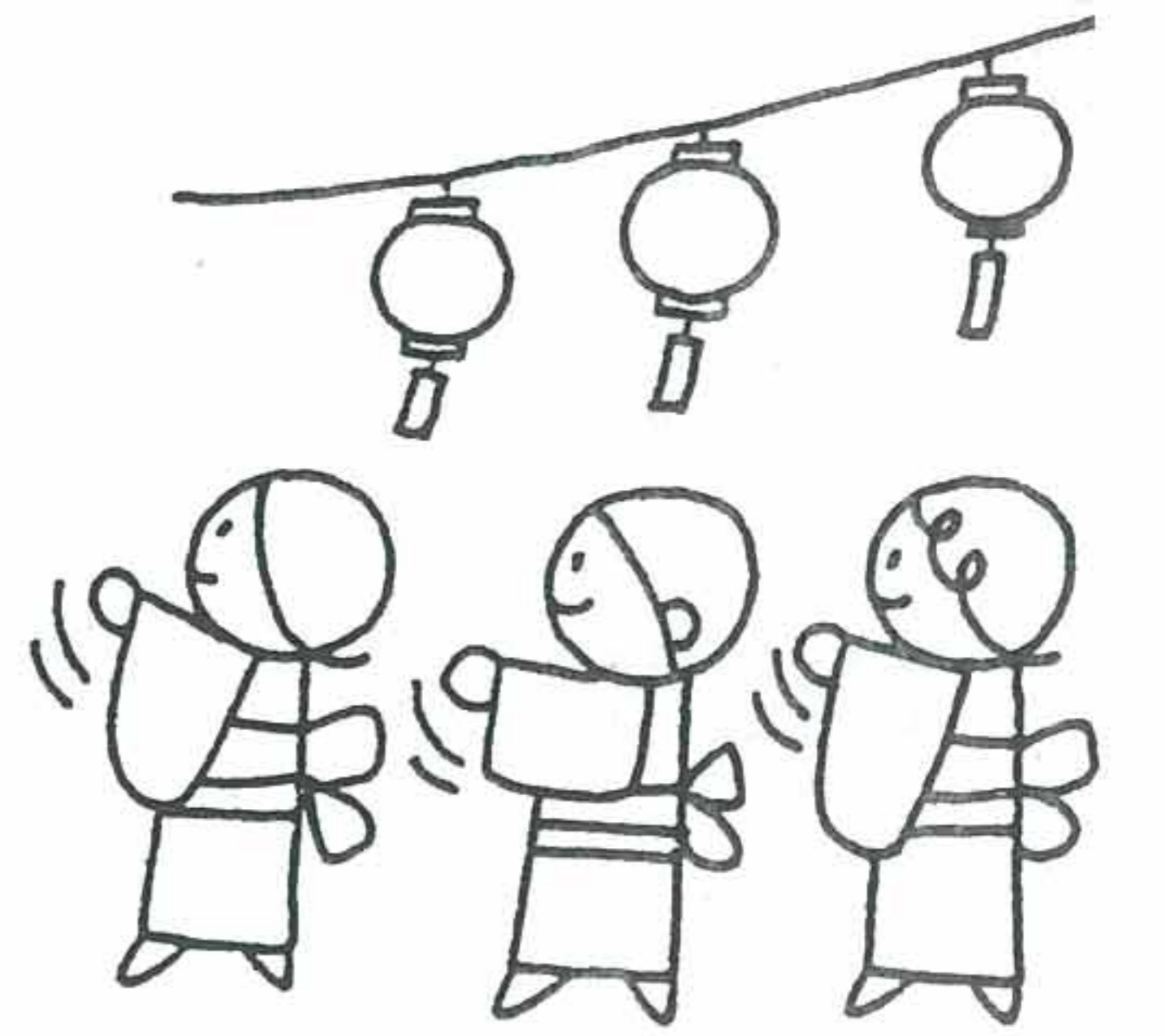
ることができました。これを機に、スタッフ一同来年、再来年・・・と、引き続き皆さんに親しまれる夏まつりにしていきたいと考えております。今後とも、ご支援ご協力の程、よろしくお願い致します。本当にありがとうございました。



去る7月30日(土)に「'94 あいふるの里 夏まつり」が開催されました。いつもの駐車場も、この時ばかりは大変身。中央には櫓がそびえ立ち、いくつもの模擬店が建ち並び、踊る人あり、見る人あり、食べる人ありに加えて、仮装大会のためには化ける人ありの盛大な夏まつりが繰り広げられました。

今年のメイン・イベントは「仮装大会」。あいふるの里の関係者だけでなく、外部の方も含め、様々な方が多勢参加して下さいました。

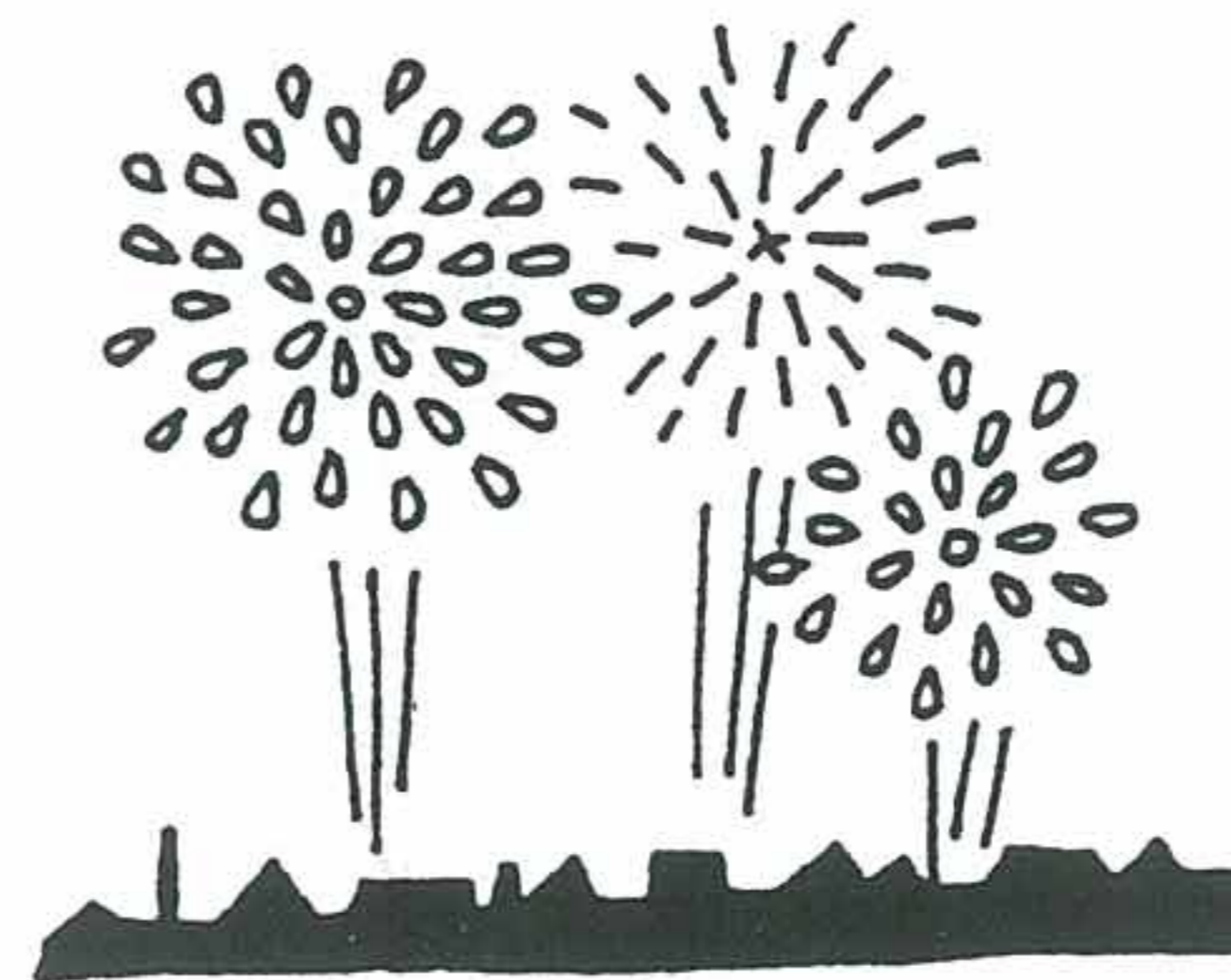
例えば、職員による「れれれのおじさん」や「変なおじさん軍団」はじめ、ケアワーカーとファミリーによる「水戸黄門」、学生さんによる「ウェディング(男女入れ替り)」、



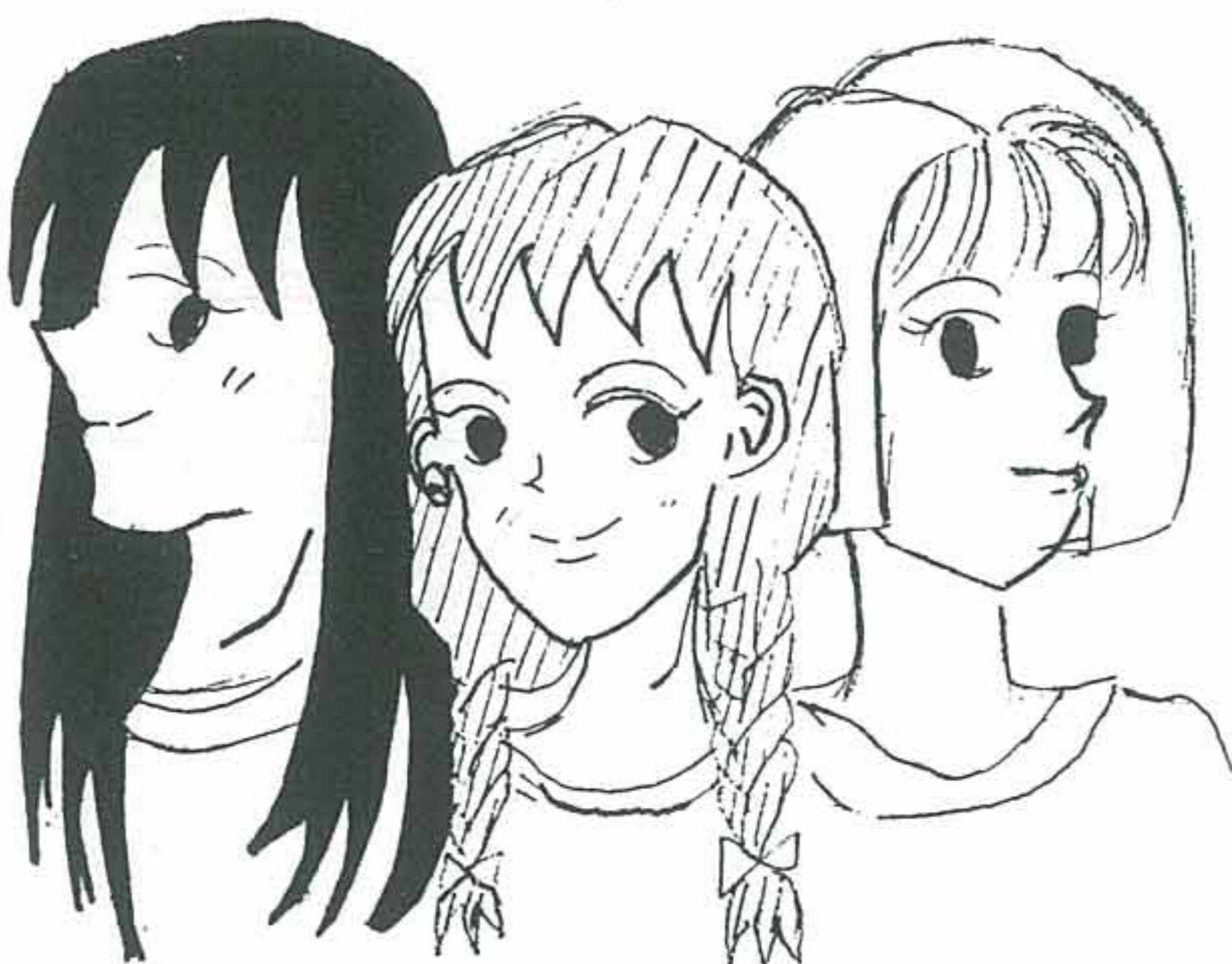
ぼんおどり



小さな子供さんの「カッパ」や「あんなばんまん」などなど。少し渋めのものから可愛らしいものまで勢揃いとなりました。その中で、見事に大賞に選ばれたのは、あいふるの里の職員の長野主任と林ケアワーカーによる「僕も私も踊り隊」。一人3役、「一郎・二郎・三子」と「四子・五郎・六郎」の姿で踊ったり、カメラを構えたり、子供やお年寄りさん達と遊んだりで大忙しの2人でしたが、



私にもちよこつと言わせてよ
 私たちの施設では、ホーム内で病気のお年寄りが出た場合、まず家族に電話連絡し家族の方に病院への付添をして頂くことになっていきます。けれども家族の方にも御自分達の生活のリズムがあり、緊急の場合なかなか連絡がとれない時があり大変です。老人ホームという「預けたらそれで関係ない」と思われている方も数多く、この時ばかりはご家族のご協力のあるところと、ないところの差が大きく分かれます。これから先、高齢化が進んでいく中で、皆様方一人一人がご自分のかけがいのない親様のこと暖かい目で見守ってあげて頂きたいとおもいます。



Fight

よかったね！コーナー

へリハビリ、
参加できてよかったね

「自立でなんとかおきられますので、声掛けして手助けしてあげて下さい。」
 「ワーカーの申し送りに、こんな文章がありました。リハビリ訓練の効果です。今回はこの出来事の主人公Tさん（80才）です。ご本人は「リハビリといってもちよこつと体を動かすだけだぞ」とか「なかなか出来んわねえ」と謙遜してはいますが、リハビリにかけける意気込みにはすごいものがあります。「明日、リハビリがありますか？」「リハビリにいくので起こして」とNC越しに話されます。今は、マット訓練の真っ最中です。左側マヒがあるため、なかなか思う様に進まないようです。ベットから起き上がる方法は次の通りです。
 (1) 足をベットから下ろす。
 (2) ベットに肘をつき起き上がる。
 (3) 座る。
 最近のリハビリシューズが似合う様になってきたTさんです。



《わしは頑張っている》

わしのいる老人ホームではな、足が弱くなって歩くことができませんで車椅子のジイーや病気で手や足が動かないでどうしようもないバアーや、いろんな年寄りがおらっせる。その中で、わしは元気だでなんか出来んかと思って考えたんだわ。それで毎朝皆の部屋の拭き用のタオルを取り替えることにしたんだわ。毎朝皆んとこへ行って挨拶したり話したりして、おたぎやあに励ましたり元気づけたりしてわしも生活にハリができて毎日楽しくなった。わしも今は元気だけれども何時みんなの手を借りんならんかもわからん。元気なうちにみんなの役に立ちたいわ。助け合って生きてかなあかんわあと思ってる。

お雛祭り会について

平成6年3月初め、デイサービスで「お雛祭り会」を行いました。まず、前日までに、それぞれの役の衣装をダンボール紙や一般の包装紙で創りました。人ひとり、起立でも車椅子のままでも身に付けることができる程の大きさに切ったダンボール紙に、お年寄り自身の手で細かくちぎった包装紙をペタペタと張っていく作業は、当日に思いをはせつつ、皆さんがわいわいと話しながら、一緒に同じ物を創りあげるための楽しい時間となりました。

さて、本番。利用者の皆さんの中から、公平にくじ引きで10名の役者を選出します。配置は、上から1段目にお内裏様とお雛様、2段目に3人官女、3段目に5人囃子という、豪華3段飾りに楽器隊数名。全員が整列したところで、「しばし童心に返って「うれしいひなまつり」を大合唱。そして記念撮影。鈴やタンブリン・木魚や大正琴を奏でながら、賑やかに過ぎしました。

その後は、いつも通り昼食、そしてお風呂。けれど、折角だから「お雛様の格好を他の人にも見てもらおう！」誰からともなくそんな声が挙

がり、同じフロアの事務所や厨房・医務室へと衣装をつけたお年寄り達と大行進をしました。歩ける人も車椅子の人も、奏でる人も唄う人も、ボランティアさんも職員も一緒になって練り歩きました。おじいさんがお雛様を演じることになった場合は、もちろん紅をさして……。どうせここまでやるのなら、職員に見せるだけではつまらない。お2階の皆さんにも見てもらおう！というデイサービス職員の勝手な発案で、車で特養まで出かけて入ったの出張大行進。

ポワポワ シャンシャン ポポワ
 きょううは たのしい ひなまつり

たまには、デイサービス 特養のお年寄り達が一緒に共感できる場があるというのには、本当に楽しいことだなあ。と実感した一コマでした。大行進の後は、雛あられと手造りの甘酒で一休み。職員の問いかけには「今日1日、良かったよ。」と答えて下さる皆さん。

私達職員一同は、お年寄りの皆さんに、あいふるに来た時だからこそできることを、より楽しく、より賑やかにと思っ、様々な行事を企画

しています。「若いもんが、何やらやりかけとるぞ。仕方ないから、やったるか。」そう思っってお付き合ひ下さるかたも、中にはいらっしやるのではないかと思ひますが、後日後記のような感想を自筆で書いて下さる方もあります。本当にありがたいことです。こういったお年寄り達の笑顔をもっともっと引き出すために、いろいろなお話を企画していきたいと思ひます。そのためにも、利用者の皆さんはじめご家族の皆さん、ボランティアの皆さん、他部署の職員の方々に、ふつつか者の私達ですが、今後共、ご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、毎週金曜日にご利用していただいている桜井ゆき子さんからのお手紙を掲載させていただきます。『おとしよりのおひなさまが、わかわかしく立派に出来上りました。喜んであれほどいるやうで、ほんとうにたのしい1日でした。主任様や皆様ののおかげです。あいふるにお世話になってほんとうによかったと思ひます。おいしい甘酒やあられまいただいて、ありがとうございます。』

さあ!! 歌おう!!



さあ!! じゃんじゃん
歌ってください。
すばらしい歌声
ひびかせて下さい



♪カラオケ大会



心しみる歌声!!
100点満点だ〜!!



♯
♪
ビールはうまい!!
つまみもうまい!!
歌もうまいよ
ワーカーさん。
きれいだねえ



新入職員ご挨拶

林 克利 (ディ・サービス)

私は、愛知県東の東のはずれにある、新城市で生まれました。高校までそこで暮らして、知多半島にある日本福祉大学へ通い、ここあいふるの里に来ることになりました。今は木曾川町で一人暮らしをしています。あいふるの里での仕事はまだまだわからないことだらけです。職員さんや、利用者の方にもいろいろ御迷惑を掛けることと思いますが、よろしくおねがいします。また一宮のことも全然判りませんので、皆さん教えてください。

内藤 三鈴 (ケア・ワーカー)

四月から「あいふるの里」の新入職員になりました。あいふるに初めて来た時に職員の皆さんが笑顔で挨拶をしてくださったのと、ファミリイという呼び方にとても感動しました。今はわからない事ばかりであつというまに時間が過ぎて行っています。早くあいふるに慣れて、職員の皆さん、ファミリイの方々と楽しく生活していきたいと思っています。

木下真知子 (栄養士)

今年の四月から、先輩の平井栄養士の後任として働かせて頂くことになりました。まだ栄養士として、未熟な面が多々あるとは思いますが、少しずつ努力していきたいと思っていますので、皆さんの御指導の程をよろしく願います。

尾崎やよい (厨房)

二月から勤務する事になりました。故郷の宮崎県からこちらにきて九年になります。福祉の場に接するのは初めてなので、どうしたらいいのかわからない事や、知らない事ばかりで、戸惑いながら四ヶ月が、あつという間に過ぎました。まだまだ慣れない事、わからない事もありますが、どうぞよろしく願います。

橋本 輝枝 (ディ・サービス)

あいふるの里でお仕事をするようになり早、二ヶ月程になります。お蔭様で気持ち、充実感に満ち足りております。私は子供がある程度の年齢に達したら、常々、福祉関係の仕事にと密かに考えておりました。昨年の夏、ボランティアとして、こちらへおじゃまして、お年寄りの方の「ありがとう」の言葉を耳にし、また、優しい笑顔、声かけで接して

いるワーカーさんを目にし、大変感動しその時「これだ」と思い決心しました。実際に飛び込んでみると、まだまだ大変な事ばかりで、なかなか成長できない私ですが、優しい自然の笑顔、声かけ、思いやりの気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。未熟な私ですが、やる気、元気はありますのでよろしく願います。

田中 路子 (厨房)

一宮に引越して三ヶ月、あいふるにきて二ヶ月、夢中で過ぎて来たように思います。慣れたような慣れないような、初めての勤めで本人は一生懸命なんです。御迷惑をおかけしているような、いないような・・・

「まかせても安心」という状態に早くなりたいたいと思います。これからも頑張りますので、皆様の御指導の程よろしく願います。

河合真理子 (ケア・ワーカー)

正直に言って、老人ホームで働くとは思っていませんでした。仕事を探すことになり自分なりに調べた経験したりしましたが、やりたいことが違う気がしました。そこで興味を持ったのが老人ホームという職場です。老人ホームで働くというこ

とは私にとってとても自然なことでした。毎日が楽しいのでとても満足しています。今の時点では、私にとって見つけたかった事なのかどうかはわかりませんが、大切な時間を過ごしている気がします。人生の先輩であるお年寄りの方々と、沢山のお話をしていきたいと思っています。そして、皆さんがあいふるの里で、少しでも楽しく快適に過ごしていただければ、私にとっても楽しい毎日になります。毎日、毎日、楽しく生きていきたいです。

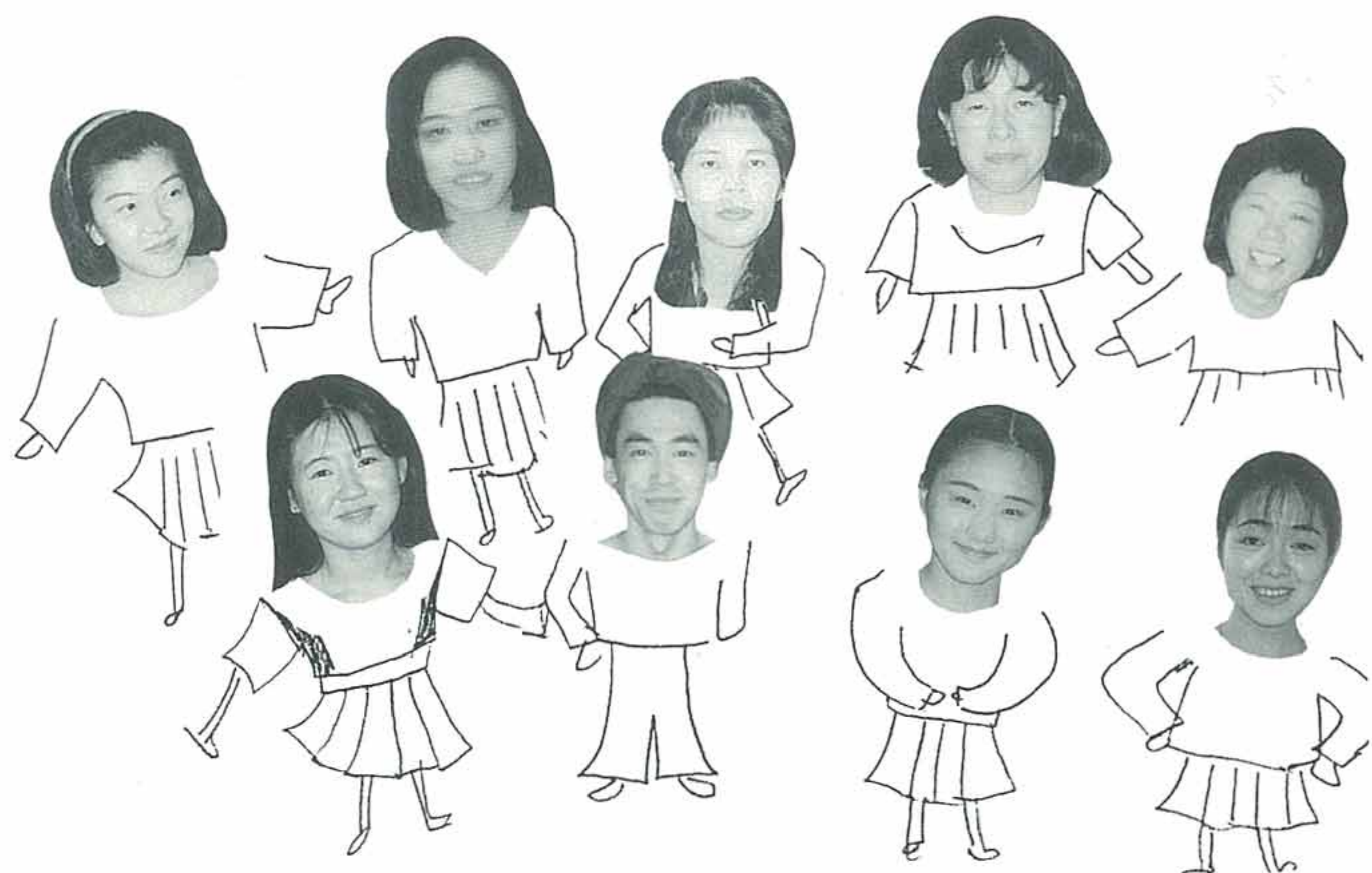
二宮 夏美 (事務)

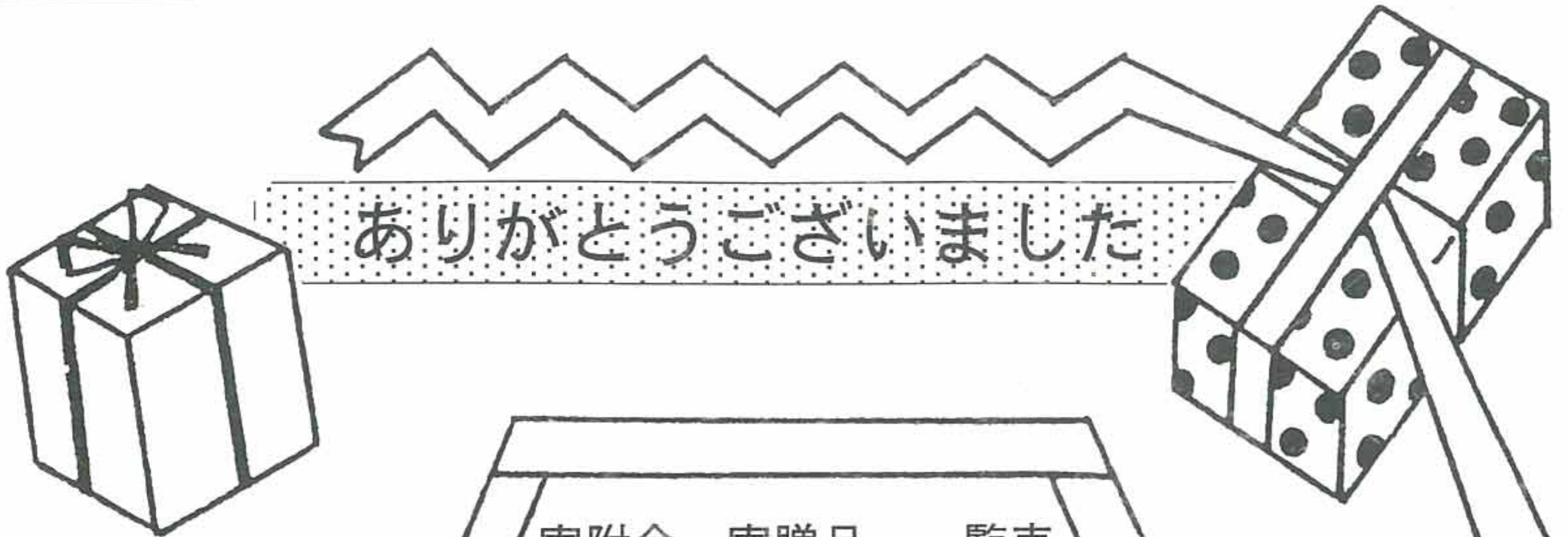
二月九日に入社しました。江南団地から通っております。面接時は大雪で、遠く感じ毎日ここまで、通勤できるかなと心配しておりましたが、今では、道路の草花にも目がゆく程少し余裕も出てきました。館内を案内して下さった時に、施設長の「ファミリイの方や、ここを利用される方は、ここが家庭です。」と話された言葉がすごく印象に残っております。年々家庭回帰と言われますが、高齢化社会になりつつある今、私たちがいずれは老人になる、いずれは誰かのお世話になるであろうと思いが、あいふるの里で働いている間、それぞれに与えられた仕事、立場は

違っても少しでも人のお役に立てるよう努力したいとおもいます。細く永く勤められる様頑張りたいとおもいます。

宮地久留美 (喫茶)

私は、福祉施設に勤める事は初めてで驚く事ばかりでした。その中で喫茶の方を担当する事になりました。ファミリイの皆さん、ワーカーさんの名前を覚えながらの仕事は大変でした。皆様の手助けを受けながらのスタートでしたが、今は、少しずつですが、名前も判るようになってきました。ここで働いている皆さんから教わった優しさを忘れずファミリイの皆様に接して行けたらと思っております。少しでも心の休まる喫茶「駱駝舎」になれたらと願っております。





寄附金・寄贈品 一覧表

* 寄附金 *

平成6年
 2月9日 ディ利用者遺族
 柴田喜久様
 2月23日 御家族
 富田絹代様
 3月30日 利用者
 草野ツル様

* 寄贈品 *

1月2日	山口朝一様御家族	ビール券 10枚
1月3日	S・S日置き様	みかん 2箱
1月3日	木村とみえ様ご家族	みかん 2箱
1月26日	(有)丸富織物様	下・マフラー
3月7日	中島郡 伊藤勝吉様	三つ葉 1箱
3月8日	(有)あすなるファーム様	牛乳 130本
3月10日	柴田十四子様ご家族	菓子 20箱
	高木志津様御家族	みかん 1箱
3月16日	伊藤ふで様ご家族	みかん 1箱
4月2日	高木志津様ご家族	バナナ 3箱
4月18日	ボランティア山下様	ドリンク 1箱
5月2日	小島トシコ様ご家族	大根

編集後記

木々の緑も増々色を濃くして参りました。このまばゆい季節に「ビタミンC」創刊出来た事に関係者の方々に感謝致します。本当に有難とう御座居ました。今後共「あいふるの星」同様「ビタミンC」を暖かく見守って頂ける様お願い致します。

創刊号という事で担当者達の楽しい誌面にしたいという気持ち空廻りしてしまっただのではないかと反省しています。

こうしたらもっと楽しい誌面になるのになあなんて御意見やここはこうして欲しいなあなんて御希望がありましたら是非編集部までお便り下さい。

次号は更にパワーアップして皆様にお目見え出来る予定ですので御期待下さい。